

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800331		
法人名	社会福祉法人菊水会		
事業所名	グループホームうぐいすの里		
所在地	山口県下関市菊川町大字下岡枝1062番地		
自己評価作成日	平成30年7月13日	評価結果市町受理日	平成31年2月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は木屋川の河川公園のすぐ傍にあり、四季折々の景色が楽しめます。入居者様お一人おひとりの思いを大切にするため、会話の中の言葉の意味を理解することを心掛けながら聞くようにしています。時間の許す限り入居者様と過ごし散歩やレクリエーションが楽しみになるように努め、対応もゆつくりと行うことを心掛けています。食事を3食作り、盛り付けや食器洗いにも参加していただいています。毎年1回来園作りを、毎月1回甘酒を一緒に作り召し上がっていただいています。このような、今まで自宅でして来られたことに近いことが出来たり、続けられることで落ち着いた生活が出来るように支援しています。家族会を2ヶ月に1回開き食事を一緒に摂っています。春には家族旅行を計画実施しました。また地域や法人との行事にも参加し入居者様の生活が豊かに、張り合いのあるものになるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりと一緒に過ごす時間を大切にされ、日々の関わりの中での利用者のなげない言葉や行動、嬉しそうな表情などを、職員間で話し合われて作成された、記入しやすく把握しやすい「生活記録票」に記録されて、本人の思いや意向の把握に努められ、介護計画に反映されています。年6回、家族会行事として「日帰り旅行、衣替え、夏祭り、敬老会、大掃除、総会」を開催され、家族が事業所での暮らしや介護にも関われる場面や機会づくりとしておられる他、職員と家族が利用者を支えていくための協力関係が築けるよう心掛けておられます。法人のグローアップ勉強会は毎月1回開催され、受講後はスタッフ会議時に復命、共有されている他、内部研修は計画的に実施されています。緊急時や事故発生に備えて毎週2回(火、金)、マニュアルに従って定期的な訓練を実施され、実戦力を身につけられるように取り組まれています。職員は自己啓発として1年間の目標設定を掲げられ、資格取得や日常業務の意欲の向上に役立てられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員で法人理念をもとに目標を作り、ホーム内に掲示、日誌にも書き込みいつも目に触れるようにしている。毎朝朝礼時に唱和している。職員が共有し実践に繋げている。	法人の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の介護目標を作成し、事業所内に掲示している。生活日誌に介護目標が記載しており、職員は、毎日の記録時に確認している他、勉強会や日常業務の中でケア目標を確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	菊川町の敬老会、お大師様など、地域の方との交流がある。運営推進会議には、地域の自治会長、市民生活課の課長、消防団の団長、警察官等の参加があり意見交換をしている。	法人として自治会に加入し、行事の情報を得ている。利用者は、地域の秋祭りやふるさと市、お大師様参りに職員と一緒に出かけ馴染みの人と交流している。敬老会の会場では地域の一員として参加し、馴染みの人と一緒に過ごしている利用者もいる。祇園祭には毎年、神輿の立ち寄りがある。法人の夏祭りにはバザーの手伝いや車椅子介助等の協力があり、地域の人や子どもと交流している。法人施設の交流スペースで開催している月1回の法話や押し花、カラオケ等に参加している他、ボランティア(ハーモニカ演奏、傾聴など)の来訪があり交流している。散歩時や近隣商店での買い物時などで、近所の人と挨拶を交わしている他、地域の人から野菜や米などの差し入れや食器などの提供も受けている。法人が開催している勉強会「地域で学びま専科」では管理者は講師を務め、認知症理解の啓発に努めているなど、地域活動や地域の人との関わりを深めるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で「地域で学びま専科」という勉強会を開催しており、今年は6月に地域の方や入居者、職員を交えた勉強会を行い、認知症についての理解を深めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は職員一人ひとりに配布し記入してもらった。評価項目を読み評価することは、ケアの確認や自分たちの立場、地域とのつながりなどの理解になった。改善すべき点は、スタッフ会議等で確認し、改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、各職員が記入後に、管理者は職員と話し合いをしてまとめている。前回の評価結果を受けて、緊急マニュアルの見直しや緊急時の対応訓練を継続的に実施しているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様の様子や行事の内容、ヒヤリ事故を報告している。また、地域の行事の情報を頂き参加することで地域に出かけ入居者様の満足につながっている。災害についても危機管理情報の交換や、れんけいについて話し合っている。	会議は年6回開催し、利用者状況や活動内容、行事予定、ヒヤリハット、事故報告、満足度調査結果等の報告をし、地域情報などを得て、話し合いをしている。緊急時連絡網体制の確認や徘徊模擬訓練の情報を得て参加しているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で河川公園の木が施設側にかかっている事を伝え、見学に来られ室内の環境など見られ、木の剪定をして下さった。理解していただけたことで入居者の環境が良くなった。	市担当者とは、運営推進会議の他、電話やFAX、出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時やケア会議出席時に相談や情報交換をしている他、徘徊模擬訓練に参加しているなど、連携をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のグローアップ勉強会では、毎年勉強の項目としている。参加できない職員には持ち帰った資料を回覧している。さくら館では、行方不明になる可能性の入居者が数名おり、ご家族の同意をいただき鍵をかけていたこともあったが、声掛け誘導で外に飛び出していける事が無くなり現在は鍵はしていない。セーフティケア会議・スタッフ会議でも身体拘束についての対応の話し合いをしている。	法人研修や内部研修で学び、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。法人の身体拘束適正委員会や月1回のセーフティ会議で身体拘束の予防についてや事例検討をしている。スピーチロックについては、気づいたときには管理者が指導をしている他、職員間で話し合いをしている。玄関に施錠をしないで、利用者が外出したい時には、職員と一緒に外出している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のスタッフ会議では、入居者様の立場を十分に理解して職員が不適切な対応をしないよう、言葉遣いやケアプランについて話し合いを行っている。法人内の勉強会や研修報告を通して職員の意識向上に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられる。成年後見制度について、グループホーム内で勉強会を行い制度の理解に繋げている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、パンフレット・重要事項説明書などで丁寧に説明をし、ユニットの見学も行っている。また、現在や将来的な不安・疑問点もしっかり耳を傾け一緒に考えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人と事業所ごとに苦情受付の窓口を設けている。家族会の時にはご家族が意見や要望が言いやすいように家族だけの時間をとっている。また、年2回ご家族に満足度調査アンケートを行い意見を頂き、運営に反映させている。	契約時に相談、苦情受付体制、第三者委員、処理手続きについて家族に説明している。面会時や電話、運営推進会議時、2ヶ月に1回の家族会(総会、日帰り旅行、夏祭り、敬老会など)や年4回の事業所だより送付時、年2回の家族の満足度調査などで、家族の意見や要望を聞く機会を設けて、家族が意見や要望を言いやすいように工夫している。ケアに対する要望はその都度反映している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課表の記入を行っている。半年毎に評価し上司との面談があり、意見や提案もできるようにしている。	管理者は月1回のスタッフ会議やセーフティ会議、朝のミーティング時に意見や要望を聴く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いて意欲向上につなげるように取り組んでいる。年3回の個人面談時でも職員の意見や提案を聞いている。雨天時の洗濯物干し場についての提案があり、反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間内の業務の見直しを行うことで、入居者様と過ごす時間を作ったり、時間内に仕事を終えるよう取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修を受ける機会を提供し、全職員会議で研修報告をおこなっている。新人職員については、法人内で新人職員研修を行っている。法人で行われているグローアップ勉強会に参加している。また、資格取得については人事考課の中で自己啓発として目標にあげてもらい各自勉強に励んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は研修報告書を提出し、内部研修時に復命伝達をし、共有している。資料は閲覧できるようにしている。今年度は認知症実践者研修(6回)、食べやすい環境づくりに参加している。月1回の法人のグローアップ勉強会の認知症、感染症、身体拘束、リスクマネジメントなどに参加し、受講後はスタッフ会議時に復命している。法人による資格取得の研修もある。内部研修は、年4回(看取りケア、緊急時の対応、認知症、レクリエーション)実施している。緊急時や事故発生時に備えての訓練をマニュアルを基に毎週2回(感染症、食中毒など)実施している。新人研修は、法人研修受講後、事業所において先輩職員の指導を受けて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加し、研修や情報交換、施設見学を行い参考になる事は取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前にその方の状態や思いを知る為にご本人やご家族に会いお話を聴いている。不安な事や要望を聴き信頼関係を築き安心して生活できるよう関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話の時間を十分に取り、困っている事、不安な事、要望等を聴きながら事業所として入居者様に出来る事を伝えるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族としっかり話し合い、必要としている支援が提供できるように対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	甘酒作りやみそ作り、花の苗植えなど知恵をいただき、一緒におこなっている。盛り付けや洗濯物干し等、人生の先輩として教えをもらいながら一緒に行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や日帰り旅行等一緒に過ごす時間を作っている。家族会の時には、ケアプランの説明と入居者様の日々の様子を伝えている。ご家族からも情報をいただき、希望に添うようご家族と共に入居者様を支えていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時はゆっくりして頂けるよう配茶する等配慮している。また、地域で開催される敬老会へも参加し、地区のなじみの方との再会が出来喜ばれる場面がある。	家族の面会や兄弟、姉妹、友人、隣人、仏教婦人会の人などの来訪がある他、年賀状や手紙のやりとり、電話の支援等をしている。敬老会に出かけた時には、地元の顔見知りの人と交流をしている。家族の協力を得ての一時帰宅(仏壇参り、草取りなど)、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事や葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や気持ちに配慮しながら、個別に楽しめるようなレクリエーションを考えたり、孤立しないよう声掛けを行っている。また、入居者様同士のトラブルがある時は間に入るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移られた方にお会いする機会があれば、ご本人やご家族にお声掛けし、関係性を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、ご本人の思いの把握に努めケアプランを作成している。また、日々の言葉や行動を個人記録に記入し、ご本人の希望に添えるよう努めスタッフ間で共有している。	入居者情報シートやセンター方式シートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉、思い、不安な様子などを、職員間で検討して記入しやすい様式にした生活記録表に書き入れている。職員は利用者と一緒に過ごす時間を大切にし、本人の言葉の意味などに気づいたことを個人記録にまとめて本人の思いや意向の把握に努め、介護計画に反映させるように取り組んでいる。困難な場合は家族からの情報を得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居者様の話を聴き、センター方式に記入している。施設におられた方は施設からの情報提供書を参考にし、情報をスタッフ会議などで共有し、ケアに生かしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、個人記録表、健康記録表に記入し、日々の様子や状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度スタッフ会議では、モニタリング、評価、見直しを行っている。家族会でケアプランの説明をご家族、ご本人様にしている。面談後には、家族に希望を聴いた上で、今現在の状態に応じた計画を作成するように努めている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている他、利用者の状態の変化や要望に応じてその都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、言葉、ケアについての気づきは個人記録表に記入し、職員間で情報を共有しケアプランに反映している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会の日帰り旅行では、デイサービスのバスや法人の車、運転を他部署職員にも応援してもらっている。野菜づくりや年末の餅つきなども、法人職員と協力しながら行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、市役所、交番、消防団、自治会長、地域包括支援センターの方と情報交換し、協力しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医にされておられる方は職員が受診支援している。また、入居される前からのかかりつけ医への受診は、ご家族の協力を得て受診している。受診の結果に関する情報を共有し、次に受診される時は、GHでの様子を伝え継続的に適切な医療を受けられるようにしている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療と1ヶ月に1回の定期受診の支援をしている。従来からのかかりつけ医と他科受診は家族の協力を得ての受診となっている。日々の健康管理は看護師が対応している。受診情報はバイタル表で伝えている。受診結果は電話や面会時に家族に伝えている。職員間ではセンター方式の療養シートに記録し、共有している。緊急の場合は同意書に記入の連絡先やかかりつけ医に連絡をし、指示を受けている他、必要に応じてその他の関係者や関係機関に連絡し、適切な医療を受けられるように支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護職が常勤しており、日々の健康管理を行っている。介護職が入居者の変化を見落とさないよう看護職が観察事項を指導し様子の報告をし合うようにしている。適切な受診や看護を受けられるように支援している。療養シート、健康チェック表を使用している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時は、サマリーを作成し情報を伝え、病院関係者と情報交換をしている。主治医やご家族と相談し、早期退院が出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時・緊急時の意向を、ご本人やご家族に入居時等に確認している。事業所のできる事を十分に説明し、嘱託医と職員が連携して取り組み、安心して生活して頂けるようにしている。	契約時に「看取り指針」に従って、重度化や終末期に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から、主治医が家族に説明し、意向を聞いて医療機関や他施設への移設、看取りなどについて話し合い、方針を決めて共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書をその都度検討し、再発防止策をスタッフ内で話し合っている。また、週2回緊急時の対応訓練を行っている。普通救命講習もグロアアップ勉強会で企画し希望者は講習を受けた。	事例が発生した場合は、その場の職員間で対応防止策を話し合い、ヒヤリ・ドキット報告書に記録している。職員間では朝礼時に報告して、共有している。月1回のスタッフ会議時に再検討をし、法人のセーフティ委員会の指導を受けて、利用者一人ひとりの再発防止に取り組んでいる。法人の普通救命講習を受講している他、内部研修での緊急時の対応や毎週2回、マニュアルに従っての応急手当や異物除去、感染症、食中毒などの対応の定期的訓練を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で実施される消防署立ち合いの避難訓練に参加している。グループホームでは、週2回緊急時の対応訓練を行っている。勉強会でも入居者様と一緒に避難訓練をおこなった。	法人施設全体で年2回、消防署の協力を得ての昼夜想定火災時の通報、避難誘導、避難経路の確認、搬送方法等の訓練を実施している。事業所独自でも利用者と一緒に避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーである自治会長、派出所、消防団員、家族が、事業所の緊急連絡網に加わり、緊急時などについての話し合いをしているなど、地域との連携を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応について、法人内での接遇の勉強会に参加している。グループホーム内でも接遇について勉強会を行い、不適切な対応をしないよう心掛けている。	職員は法人研修でプライバシー保護や接遇について学び、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心がけて、利用者の自尊心を大切にしたい対応に取り組んでいる。個人情報取り扱いや管理に留意し、守秘義務についても理解をし、遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	10時の飲み物については、メニュー表を作り好きな物を選んで頂き飲まれている。食事、パンやご飯、量等希望を聞き準備し提供している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様によっては、居室で横になりたい時間帯もある。入浴の希望や、レクリエーションや散歩、外出は声掛けをしご本人の意思を確認しながら参加していただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洋服、入浴後のパジャマ等、ご本人が着たい物を選んで頂いている。日帰り旅行の際は、女性は薄化粧をしている。美容院は、苑に来る移動美容室を利用されている方が多いが、行きつけの美容院へご家族の協力で行かれる方もいる。男性の髭剃りは定期的に支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた旬の野菜の皮むきや、盛り付け、下膳、時には食器洗いを一緒にしている。手作りのおやつも一緒に作っている。	事業所の畑で採れた野菜や家族からの差し入れの野菜などを使って三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせて形態の工夫をし、提供している。利用者の好みを聞いて管理栄養士が献立を作成している。利用者は、買い物、皮むきなどの下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。週1回のおやつづくり(プリン、冷やしぜんざい、おはぎ、ホットケーキなど)、味噌づくり、しそジュースや梅シロップづくり、干し柿づくりの他、季節の行事食(おせち、恵方巻き、筍御飯、そうめん流しなど)、誕生日のケーキ、10時の飲み物はメニュー表から選んで飲む、日帰り旅行、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録をしている。おかゆや刻み、むせる方にはとろみを付ける等その方にあった食事作りをしている。食事摂取が困難な方には栄養補助食品も勧め、食事介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけと介助を行っている。夜間は一日おきに入れ歯を預かり、洗浄液に浸けて洗浄している。歯ブラシは豚毛などその方にあった物を使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄等の記録表により、その方に合わせたトイレの声かけや誘導、付き添いを、日中夜間ともに行っている。尿とりパッドもその方に合わせて選んでいる。必要な方には、夜間ポータブルトイレを居室に設置している。	排泄等の記録表を参考にして、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけやトイレ誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便のため、毎朝お白湯や牛乳を飲んで頂いたり、ヨーグルトやバナナも摂って頂いている。牛乳が飲めない方には、野菜ジュースやヤクルトを準備している。排便状況を生活記録表に記入し、摂取量の少ない方には水分を勧める等調節をしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日13時半から18時の間で希望の時間に入浴出来るようにしている。体調等によってはシャワー浴や清拭、足浴等に心掛けている。曜日を決め、週に3回は必ず入浴出来るようにしている。	入浴は毎日、13時30分から18時までの間の間可能で、食後やおやつの後など、利用者の希望に合わせていつでも入浴できる。利用者の好みの石鹸や入浴剤を使ったり、季節には柚子を入れたりして、ゆったりとくつろいで入浴できるよう支援をしている。入浴したくない人には無理強いせず、週2～3回の入浴を目途に、職員の交代や言葉かけの工夫をしての対応をしている。利用者の状態に合わせてのシャワー浴や清拭、足浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後すぐに休まれる方も、テレビを見て過ごされる方もおられる。眠れない時には飲み物を勧めたりお話をして落ち着いた気分になれるよう支援している。居室の室温や布団の調節も行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表をファイルしており、すぐに見れるようにしている。症状に変化があり、臨時薬が出る時は、療養シートや連絡帳に記入し伝達の徹底に努めている。薬の変更があった場合は、3日間朝礼で報告し確認をしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人のクラブ活動(カラオケ教室、法話、押し花)に参加。体操(ラジオ体操、上肢・下肢筋力体操、GH独自の体操、DVD体操、廊下歩行)、脳トレ(暗算、そろばんを使う計算、習字)レクリエーションでは、言葉遊び、すごろくゲーム、黒ひげゲーム、かるた、トランプ、折り紙で作品作り、歌を唄う等楽しくされている。家事では、洗濯干し・たたみ、食事の盛り付け、食器洗い、野菜の皮むき、季節的には甘酒・味噌作り、紫蘇ジュース・梅シロップ作り、おはぎ・ぜんざい・ケーキ作り、買い物・散歩等その方の習慣や希望を踏まえて楽しく出来るよう支援を行っている。また、グループホームで生け花クラブも行っている。	草抜き、ボタンつけ、縫い物、ゴム通し、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物、野菜の皮むきなどの下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、食器洗い、しそジュースや梅シロップづくり、甘酒や味噌づくり、おやつづくり、朝のラジオ体操、上肢・下肢筋力体操、GH独自の体操、DVD体操、脳トレ(暗算、計算、そろばんなど)、法話、生け花、習字、言葉遊び、すごろくゲーム、黒ひげゲーム、カルタ、トランプ、折り紙、押し花、ちぎり絵、法人の地域交流ホームのイベント(落語、大道芸、ミュージッククラブ演奏)など、利用者一人ひとりの活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホームの周囲には河川公園があり四季を通して散歩に出かけている。季節により菖蒲見物やコスモス見物、みかん狩り、お大師様参りや地域の秋まつり、敬老会への参加など地域に出掛けられるようにしている。毎月の行事予定は入居者様の見える所に掲示している。また、年に1回ご家族も一緒の日帰り旅行にも行っているが、希望を聞きながら毎年勧めている。	近隣の散歩や買い物、季節の花見(桜、つつじ、菖蒲、紫陽花、コスモスなど)、お大師様参り、初詣、花祭り、敬老会、秋祭り、家族と一緒の日帰り旅行(みかん狩り)、花火大会、柿もぎ、地蔵参り等に出かけている他、家族の協力を得ての買い物、馴染みの美容院の利用、一時帰宅、法事、墓参りなど、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預り金で、必要なものは購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご姉妹と手紙のやり取りをされている方もいる。ご家族に電話をかけたいと言われる時は、お話が出来るよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に行事の写真や押し花、季節の作品を展示し楽しんで頂けるようにしている。玄関や居間、居室には花を飾る等して季節感を取り入れている。	玄関に季節の花が活けてあり、居間や廊下には行事の写真や押し花、七夕飾りなどの作品、カレンダーが飾ってある。テレビや机の周辺には椅子やソファを配置して、利用者が思い思いの場所でくつろげるようになっている。リビングからは手入れの行き届いた畑の野菜を見ることができたり、樹木がつくる影などで静かな雰囲気に囲まれている。室内は温度や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫されている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファの3人掛け・1人掛け、肘付座椅子、決まった食席、ホーム内の取り付けの椅子、和室の掘りごたつ等、好きな場所で過ごせるようにしている。玄関やウッドデッキにベンチやいすを用意し景色を眺めたり、気分転換出来るようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置いている物は、なるべくご自宅で使用されていたものを活かし、一人一人が居心地良く過ごせるようにしている。配置についても、今までの習慣等配慮した家具の配置にご家族と相談しながら、おこなっている。	ベッドや机、整理タンス、衣裳掛け、小卓、テレビ、カセットラジオ、扇風機、位牌、化粧品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、タペストリーや装飾小物、カレンダー、家族の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設けている。トイレは表示をし、居室も名前を表示している方もいる。自立した生活が送れるように整理整頓や、動線を考えた家具の配置、転倒の危険性がある方は、椅子やベットの柵柱などに緩衝材を取り付けるなど工夫し安全面にも気を付けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 社会福祉法人菊水会グループホームうぐいすの里

作成日：平成 31 年 1 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	「災害対策」について、訓練を継続して行う。	職員自らが、役割を確認し行動できる。	1、地震を想定した訓練の実施。 2、防災用品の再点検。 3、備蓄品の再検討。 4、実施は2019.5予定。 5、実施後は職員で意見交換を行う。	2019.1～ 2019.12
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。